



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第3回 稲沢地区



元朝祝いでの舞い。若者主体に神舞、獅子舞、三人太刀舞、三番叟、武士舞が披露された

町中心部から北東に3km。約70世帯、250名ほどが暮らす稲沢地区。有屋地域の入り口に位置し、北に龍馬山、東には太平山がそびえ、地区から延びる県道は東郷地域へつながっています。

稲沢地区を語るうえで欠かせないのが「稲沢番楽」(保存会会長・小沼直文)。五穀豊穡・悪魔退散・家内安全を祈る力強い民俗舞踊です。神室の山伏が里において舞ったものが起源とされ、600年以上の歴史があるとも。国内に存在する番楽芸能の南限であることも大きな要因となり、町唯一の県指定無形民俗文化財に指定されています。

現在は、正月元旦に元朝祝いとして、8月14日には龍馬山不動明王の祭日に奉納する舞として舞われています。今年の元朝祝いでの舞いについて、丹洋一区長は「30歳前後の若者たちがメインで舞った。人数は少ないものの確実に後継者は育ってきている。有屋小学校と連携して取り組んできた有屋少年番楽の効果もあるのでは」と話します。元朝祝いに武士舞を担った柴田惇至さんは今年で30歳。「後継者がまだ少なく、覚えることが多くて大変。その分やりがいはあるし、若い世代が地区の伝統を守ることが大切だと思う」と語る柴田さんの表情は誇らしく見えます。

人口減少が進む地域社会において、後継者の確保は急務。稲沢地区では、何百年も前から伝統芸能が若者を育て、地区の維持や発展に大きな役割を果たしてきました。人と地域をつなぐのは紛れもなく「誇り」。稲沢番楽の保存・伝承を通して、稲沢地区では誇りの醸成と新たな地域づくりに取り組んでいきます。

金山町の人口は、5,603人(4月末現在)

男性 2,711人(-8)
女性 2,892人(-4)
世帯数 1,770世帯

▼4月の異動
出生 2人
死亡 8人
転入 14人
転出 20人

編集 幸記

▼新たな取り組みとして「共同広報」を制作しました。「金山道路」の新規事業化を受け、最上地域として改めて道路の意義を考えようと思ったのがきっかけ。特集の内容は縦軸でつながっている管内4市町で同様に6月号への掲載を予定しています。

▼道路がつながることで、住民の皆さんにとって今以上に最上地域全体が生活圈になると思います。自治体広報においても、最上地域一体となった取り組みがさらに必要。「共同広報」がその基盤となれば幸いです。(つむぎ)